

テーマ：恐れを前にした時、信仰者はどのように歩むことができるのか

●歴史的背景：ダビデの抱いた恐れ(第一サムエル記 21 章-22 章 1 節)

「ダビデはノブの祭司アヒメレクのところに行った。アヒメレクはダビデを迎え、恐る恐る彼に言った。「なぜ、おひとりで、だれもお供がないのですか。」ダビデは祭司アヒメレクに言った。「王は、ある事を命じて、『おまえを遣わし、おまえに命じた事については、何事も人に知らせてはならない』と私に言われました。若い者たちとは、しかじかの場所で落ち合うことにしています。ところで、今、お手もとに何かあったら、五つのパンでも、何か、ある物を私に下さい。」祭司はダビデに答えて言った。「普通のパンは手もとにありません。ですが、もし若い者たちが女から遠ざかっているなら、聖別されたパンがあります。」ダビデは祭司に答えて言った。「確かにこれまでのように、私が出かけて以来、私たちは女を遠ざけています。それで若い者たちは汚れていません。普通の旅でもそうですから、ましてきょうは確かに汚れていません。」そこで祭司は彼に聖別されたパンを与えた。そこには、その日、あたたかいパンと置きかえられて、主の前から取り下げられた供えのパンしかなかったからである。――その日、そこにはサウルのしもべのひとりが主の前に引き止められていた。その名はドエグといって、エドム人であり、サウルの牧者たちの中の一つのものであった――ダビデはアヒメレクに言った。「ここに、あなたの手もとに、槍か、剣はありませんか。私は自分の剣も武器も持って来なかったのです。王の命令があまり急だったので。」祭司は言った。「あなたがエラの谷で打ち殺したペリシテ人ゴリヤテの剣が、ご覧なさい、エポデのうしろに布に包んであります。よろしければ、持って行ってください。ここには、それしかありませんから。」ダビデは言った。「それは何よりです。私に下さい。」ダビデはその日、すぐにサウルからのがれ、ガテの王アキシユのところへ行った。するとアキシユの家来たちがアキシユに言った。「この人は、あの国の王ダビデではありませんか。みなが踊りながら、『サウルは千を打ち、ダビデは万を打った』と言って歌っていたのは、この人のことではありませんか。」ダビデは、このことばを気にして、ガテの王アキシユを非常に恐れた。それでダビデは彼らの前で気が違ったかのようにふるまい、捕らえられて狂ったふりをし、門のとびらに傷をつけたり、ひげによだれを流したりした。アキシユは家来たちに言った。「おい、おまえたちも見るように、この男は気が狂っている。なぜ、私のところに連れて来たのか。私に気の狂った者が足りないともいうのか。私前で狂っているのを見せるために、この男を連れて来るとは。この男を私の家に入れようともいうのか。」ダビデはそこを去って、アドラムのほら穴に避難した。」

(\*アヒメレク：創世記 20:2; 26:1)

○恐怖から助け出された者の捧げる歌：四つの教え

1. \_\_\_\_\_ (1-3)

2. \_\_\_\_\_ (4-10)

※詩篇 40:4

「幸いなことよ。主に信頼し、高ぶる者や、偽りに陥る者たちのほうに向かなかった、その人は。」

※詩篇 84:12

「万軍の主よ。なんと幸いなことでしょう。あなたに信頼するその人は。」

3. \_\_\_\_\_ (11-14)

※1 サムエル記 24:6

「彼は部下に言った。「私が、主に逆らって、主に油そそがれた方、私の主君に対して、そのようなことをして、手を下すなど、主の前に絶対にできないことだ。彼は主に油そそがれた方だから。」

4. \_\_\_\_\_ (15-22)

○結論：

※ヨハネ 19:31-34, 36

「その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に(その安息日は大いなる日であったので)、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者とのすねを折った。しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。…この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない」という聖書のことばが成就するためであった。」

※ローマ 8:1

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」